

## 現状 - 多忙化問題の実態

県教育委員会では、教員の多忙化の実態を把握するために、平成 16 年 10 月、県立学校の全教員<sup>1</sup>を対象に、また、平成 18 年 5～6 月、公立小・中学校抽出校 56 校の教員<sup>2</sup>を対象に勤務実態調査を行った。

調査の結果、県立学校においては、平日、3 割近い教員が勤務時間外に事務的な業務、教科・進路等の指導、部活動指導などに 2 時間以上従事し、7 割以上の教員が仕事を家に持ち帰っており、土・日曜日にも、5 割近い教員がいずれかの日に部活動指導や課外・補習指導などの業務に従事していることが明らかになった。

また、公立小・中学校（抽出校 56 校）においても、約 3 割の教員が勤務時間外に教材研究や授業準備、事務的な業務、部活動指導などに 2～3 時間従事し、約 9 割の教員が仕事を家に持ち帰っており、土・日曜日にも、9 割近い教員が自宅で教材研究や授業準備、採点やノート点検、学級事務などを行ったり、部活動指導などの業務に従事したりしていることが明らかになった。

さらに、調査対象の県立学校と小・中学校教員 98%<sup>3</sup>が、多忙だと感じていることがわかった。

中には多忙だと感じながらも遣り甲斐をもって仕事に臨んでいる者もいるが、その割合は小・中学校教員の回答者の約 2 割にとどまり、その他の教員は仕事に対する充実感を得られず、その約 1 割の教員は多忙のため心も身体も疲れきっていると回答し、多忙化問題は、教員の仕事に対する意欲のみならず、心身に大きな影響を及ぼしていることが明らかになった。

---

<sup>1</sup> 県立学校の全教員： 高等学校（盛岡市立高等学校含む）、盲・聾・養護学校の教諭、養護教諭、実習教諭の本務教員

<sup>2</sup> 56 校の教員： 各教育事務所の抽出校の教諭と養護教諭  
（小学校 27 校、中学校 29 校、計 56 校）

<sup>3</sup> 小・中学校の教員 98%： 「いつも感じる」「しばしば感じる」「時々感じる」と回答した者の割合を合わせたもの